

「地域の戦災記録/記憶の次世代継承と可能性」

事業責任者 国際文化科学研究科・教授・長志珠絵

□取り組みの概要・目的

「神戸空襲を記録する会」事はじめー1970年代の地域の市民運動および2000年代の戦災死者名簿編纂のとrikumの思いと思想性の検証

→方法としての一地域の新聞紙面の情報収集及びそれらに関わった記者へのインタビュー、2000年代の「名前を残す」作業へー関係冊子作成

→市内図書館等関係諸機関配布

→市民の平和教育研究活動の歴史文化資源として活用のため

□作成中の冊子ー



「紡ぐー「神戸空襲を記録する会」事始め」(A4-142頁)



神戸空襲を記録する会関係資料集5
『紡ぐ「神戸空襲を記録する会」事始め』

目次

地域の戦災記録/記憶を「紡ぐ」	4
第1部 記録を紡ぐー今こそ生きた「庶民の戦災史」を	
「記憶を風化させないー神戸空襲を記録する会の結成」	8
「頼れる人」ー中田政子さんの回顧	12
第2部 名前を記す せめてお名前だけでも	
名前を記す	18
解説 名前を記す	29
資料編 会報/空襲だより	
会報	36
空襲だより	66

2022年度神戸大学地域連携報告書
(神戸空襲を記録する会資料集5)

紡ぐ

「神戸空襲を記録する会」事始め

神戸空襲犠牲者 銘板に40人追加

1945年の神戸空襲で犠牲になった人の名前が刻まれた大倉山公園(神戸市中央区)の慰霊碑に5日、新たに40人の名前が刻まれた。参列した遺族が新たな銘板を取りつけ、77年前の戦禍で亡くなった家族を悼んで手を合わせた。(電門和話)

大倉山公園の慰霊碑で式典

この日の式典では、神戸空襲で犠牲になった人の名前が刻まれた大倉山公園(神戸市中央区)の慰霊碑に5日、新たに40人の名前が刻まれた。参列した遺族が新たな銘板を取りつけ、77年前の戦禍で亡くなった家族を悼んで手を合わせた。(電門和話)

遺族ら「()」
同市や「神戸空襲を記録する会」にちなみ、神戸では太平洋戦争中に100回を超える空襲があり、計500人以上が死亡したとされる。しかし、同時に戸籍も焼けるなどしたため、誰が亡くなったかの記録が十分に残っていないという。同会は、亡くなった人の生きた証しを後世に残そうと、空襲の収束を経て、2013年に市と協力して慰霊碑を設立した。2年に1度、刻銘追加式を開き、これまで12331人分を刻んだ。